

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

後期教養学部教養学科総合社会科学分科国際関係論コース 3年

参加プログラム: 2014年度全学交換留学

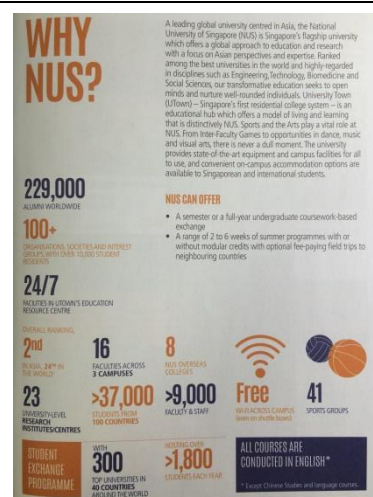
派遣先大学: シンガポール国立大学(NUS)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③公務員 ④非営利団体

⑤民間企業(業界:) ⑥起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学(National University of Singapore / 以下 NUS)は1905年に設立された、長い歴史を持つ大学である。近年の大学ランキングでは、アジア圏内で東京大学に次いで2位、全世界のランキングでも20~30位前後に位置し、世界的に評価が高まってきている大学である。その理由の一つとして、シンガポール大学は国際色が豊かであり、合計で100以上の国から毎年2000人近くの留学生を受け入れている。留学生向けのサービスや学生団体によるサポートも充実しており、1年を通じ様々なイベントが開催されている。広大な敷地には16のFaculty(3つのキャンパスの合計)と様々な研究施設が存在し、キャンパスのほぼ全域にわたってFree-Wi-Fiと無料シャトルバスが用意されている。また、課外活動にも力を入れており、41のスポーツグループと様々な文化的団体、寮やFacultyごとに行われるスポーツ大会などに加え、長期休業中のプログラムも充実している。様々な文化が入り混じっているグローバルなシンガポール国立大学は、留学生を含めた学生たちに、きっと深い学びと忘れられない経験を提供してくれるだろう。



留学した動機

私が留学を希望するようになったのは大きく分けて3つの理由がある。第一に、私が海外に目を向けるきっかけとなった高校時代の短期留学プログラムである。当時、まだ日本から出たことがなかった私は、単純な興味から高校のプログラムを利用し、約10日間イギリスに滞在した。短い時間ではあったが、海外の高校の授業やホストファミリーとの生活、英語で話す友達との交流などを通して、とにかく楽しいと感じると同時に、今までとは全く異なった世界をじかに体験し、自分の世界が広がったような気がした。そしてこの頃から、留学のことを漠然と考えるようになった。第二に、大学の英語の授業である。高校までの授業と異なり、大学では英語を実際に使う授業が多くなり、自分が今まで習ってきた英語では十分な発信や議論ができないことを痛感した。日常的な会話はともかく、ディスカッションや英語で行われる講義になるとついていけなくなる事が多く、相手の言うことが理解できない、自分の意見を十分に伝えられないというもどかしさを強く感じた。留学に行けばすぐに英語ができるようになるというわけではないが、自分の能力を高めるために英語だけの環境で長期間学びたいと強く思うようになり、留学したいという気持ちが強まった。第三に、大学内での交換留学生との交流である。昨年の秋から始まったPEAKプログラムにおいて、生徒の初期のサポートと交流を行う学生団体PEAK Friendsに所属することで、今まで自分とは全く異なる環境で生活してきた学生と触れ合う時間が一気に増えた。彼らの多様な考え方や異なる文化に触れると同時に、それぞれが持つ個性・能力の高さに感心し、何より交流を楽しむことができた。この過程で、自分も日本という枠を飛び出し海外で学習・生活することにより、より多くの人々と交流を深め、様々な価値観・文化に触れ、自分の視野をさらに広げていきたいと思うようになった。これらのことに加え、この留学を通じて、多様な人々とのつながりを大切にすることはもちろんのこと、実用的かつ学問的な英語力や発信力を身につけていくことで、留学後の学問に対する幅を広げ、自分の将来の選択肢も増やしていきたいと考えた。以上のことより本プログラムへの参加を決意した。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦2014年 学部3年の夏学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学
- ③留学期間: 2014年8月 ~ 2015年5月 学部3年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦2015年 学部3年の冬学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦2016年 学部4年の4月頃に(行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位133単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位40単位
留学後の取得(予定)単位50単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦2012年4月入学 西暦2017年3月卒業
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: 5年間

⑨留学時期を決めた理由:

2年目の時点では自分の専門分野がまだ決まっておらず、4年目では卒論の関係で時間的に厳しいと考えたため。

留学の準備

① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的に東京大学の国際交流課を通じて書類等の提出が行われる。申請書のほかに、在学証明書や成績証明書、語学証明書、(准教授以上の)推薦状等、多くの書類が必要のため、早めに準備する必要がある。語学に関して、点数が届いていない場合でも申請はできるが、受けたことがない、あるいは受けていたとしても結果が届いていない場合には申請できないので注意が必要である。点数が足りていない場合、留学先の大学の書類提出日までに、より高い点数を獲得した場合は、最新のものに変えることが可能である。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人はシンガポールの入国ビザは必要ない。入国後、大学のほうで指示があるため(8月上旬)、それに従い Student Pass(学生長期滞在ビザ)を取得する。用意すべきものは渡航前に大学から指示される。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に必要ない。ただし、海外留学保険では基本的に虫歯等の治療は適用されないため、留学前に日本の歯科医で検診しておくといふ。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの留学保険に加入した。担当者の方が詳しく説明してくださり、また留学中に何かあった場合も丁寧に対応してもらった。学校の留学前オリエンテーションでも保険会社が紹介される。大学によっては、現地の大学指定の保険に入らなければならない場合もある(NUSではそのような保険はない)。また、上述の通り、通常では虫歯等の治療は適用外であるため、心配であればオプションをつけてもらうといふ。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

授業によっては、メールでの提出ができず直接紙媒体で提出しなければならないものがある、またテストが夏季休業直前という場合があるため、事前に相談し確認する必要がある(特にNUSの場合、8月の第1週にオリエンテーションがあり、渡航が早い)。また、所属学部の教員の印鑑も必要であるため、授業が終わる前に頼んだ方がよい。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

自分の場合は特別な準備はしなかったが、英語の能力を本気で向上させたいのならばやっておいた方がよい(特に単語力とリスニングが足りていなかったと感じた)。また、レコーダーなどを用意し授業を録音しておく、授業中に理解できなくても後で聞いて便利である。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シンガポールの場合、たいてい現地で買えるため、特別に準備しておいた方がよいものはない。日本からのお土産を持っていくといふ(分けられるお菓子など)。日本食も値段は高いが充実している。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)(●は単位認定の申請“予定”のもの)

Semester1

- Southeast Asia: A Changing Region ●
- International Politics in Southeast Asia ●
- Introduction to Public Speaking ●
- Gender and Sexuality in Japan ●

Semester2

- Comparative Study of Development ●
- Leisure, Recreation, and Tourism ●
- Sociology of Tourism ●
- Itadakimasu: Food in Japan ●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

NUSでは、ほぼすべての授業がLectureとTutorialに分かれており、前者では教員による講義、後者では学生によるディスカッションやプレゼンテーションが中心になっている。文系(Faculty of Arts and Social Science)の授業では、多くの授業で毎週Readingの課題が課されるほか、3~6人グループによるプロジェクトが多いことも特徴的である。授業で用いるレジュメやReading等はすべてオンラインで管理されており、非常に便利だった。

私は専攻である国際関係・開発の授業、興味があった東南アジア研究・Tourism研究を中心に、学習計画を立てた。



特に印象的だったのは Comparative Study of Development の授業で、Development とは何か、経済・社会・政治などの分野とどうかかわるか、近年発展が目覚ましいインドや中国、韓国ではどのような政策が行われてきたのか等を学んだ。とりわけ、グループごとに「Development を定義し、それを計測する Indicator を提案せよ」というプロジェクトが印象的だった。Development とは限られた視点で定義できるものではなく、何を重視し何を目的にしているかで大きく変わるということも学んだ。また、Tourism の授業も大変興味深かった。大学入学後、及び留学中に何度か海外旅行をする中で、旅行産業(特に、旅行産業が急速に成長している東南アジア地域)に興味を持つようになり履修した。社会学における Tourism の位置づけや、“Tourist Gaze”、Tourism と写真やお土産の関係性など学問的なことに加え、現地への文化・社会・経済的影響や新たな需要に対応する形で注目される Innovative Tourism など、より実践的なことも学ぶことができた。将来は旅行産業に関わることも考えるようになり、非常に有意義な授業だったと思う。その他、Public Speaking の授業では、Tutorial で各自 6 回のスピーチと Feedback を行うことで、人前で(英語で)話すことに自信をつけることができ、2 つの Japanese Studies の授業では、日本以外の国の視点で Gender と Food について学ぶことができ、新たな発見があった。

上記のように自分の関心分野について新たに学ぶことができた一方で、全体としてはどの授業も非常に大変だった。毎週の Reading は最初の 3 週間を過ぎたあたりから追いつかなくなり、グループプロジェクトでは他のメンバーに頼るという場面も少なくなかった。予習はなんとかできたものの(Reading)、復習までは手が回らず、試験前も基本的に時間が足りなかった。また、試験ではたっぷり 2 時間かけて、Essay のように答える形式がほとんどであり、決して簡単ではなかった。知識は深まったものの、やはりすべて英語で学ぶというのは、自分にとっては大変であり十分に満足できるほど学ぶことができたわけではなかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1・2 学期ともに 4 つの科目を履修し、単位はそれぞれ 4 単位だった(基本的に留学生は 3~5 つの授業を履修し、ほとんどが 4 単位)。それぞれの科目につき Lecture が 95 分、Tutorial が授業によって毎週あるいは隔週で 95 分という形だった。Tutorial はいくつかの時間帯が選べるため、(土日を除いて)授業がない日を 1~2 日つくることもできた。授業時間全体としては東京大学より短かったが、授業以外で課題や Reading に取り組まなければならなかったため、授業以外の学習時間も考慮すれば、NUS のほうが困難だと感じた。

④学習・研究面でのアドバイス

基本的にどの授業も課題が多く、特にグループプロジェクトは時間がかかるため、シラバスや 1 回目の授業を利用し、自分にこなせるかどうかを判断したうえで履修するのが良い。自分の場合は 4 科目ずつ履修したが、それぞれの科目を深く学びたいなら 3 つでも良いと思う(実際、1 学期は 1 つの科目が完全におろそかになってしまい、学べることは少なかった)。時間をどう使うかが非常に重要であり、課外活動とバランスを取りながら計画的に課題・学習を進める必要がある。Essay などの課題はあらかじめ提出日が決まっていることが多いため、時間がある時に少しずつ進めておくとよい。また、留学生は Tutorial を選ぶ際の日にち・時間が正確に決まっており、早い者勝ちで埋まっていくため、希望するものを取るには早めに登録に行ったほうが良い。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

自分にとっては、授業も課題もすべて英語であるということが最大の難関であった。授業を録音し、テスト前に復習する、それぞれの Reading の要点をまとめあらかじめ試験に備えておく等の工夫をしたが、それでもやはり圧倒的に時間が足りないと感じた。また、Singlish に限らず、全体的にリスニングが苦手であったため、講義やディスカッションの際についていけないことが多々あった。また Tutorial があり、授業は完全に受動的なものではないとはいえ、授業だけで Speaking の力を伸ばすことは難しく、授業以外の課外活動にも積極的に参加したほうがよい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

NUS からの留学許可が下りるとほぼ同時に、留学生向けの寮も提示された。寮は留学生向け(PGPR/UTown Residence)と現地学生向け(Halls of Residence)のもの、部屋はクーラー有、シェアルーム等から選択することができる。2014 年度の東大からの留学生は第一回の申請時に全員寮を獲得することができず、皆第二回の申請で初めて申請が通った。他の大学の留学生に聞くと、最終的に大学内の寮に住めなかったということもあり、その場合は自力で見つけなければならない。一応、このようなところがあるという NUS のサポートもあるが、基本的には学外のほうが高くなる。



私の場合は、学内の Hall of Residence の一つ、Raffles Hall という現地学生向けの寮に居住することができた。家賃は NUS 内の寮で最も安く、クーラーなし、シェアルームで 1 学期間 1275~1350SGD、プラス朝食・夕食が 1 学期間 400SGD 前後だった。長期休業中に滞在する場合は 1 週間 75SGD かかる。シングルルームの場合は高くなる。トイレ・シャワー・洗濯機(無料)はフロアごとに共同であったが、混んでいて使えないというようなことはまったくなかった。共同の Study Room もあり、そこではクーラーがきいていた。キャンパスにおける位置としては Faculty of Engineering / Arts and Social Science / Central Library / UTown Residence / Mulri-Purpose Hall(試験が行われる場所)等に近く、大変便利な場所に位置している。食事は 3 つの肉・魚料理から 1 つ、2 つの副菜から 1 つ、3 つの野菜から 2 つを選び、スープとデザートがつく形式であり、味は悪くはないが、メニューは 1 年を通じてほとんど変わらないため飽きてしまうかもしれない。Raffles Hall には全部で 500 人近くの学生が居住し(そのうち留学生は 15 人)、6 つの Block に分かれている。寮では独自のサークル活動があり(Co-curricular Activity/CCA と呼ばれる)、ほとんどの学生が 2~4 つの CCA に所属していた(右図参照)。毎年 1 月から 2 月にかけて Inter Hall Game と呼ばれる寮の対抗戦があり、スポーツ系の CCA はそれに向けて週 2~3 回ほど練習がある。文化系の CCA も年に 1 回以上発表する機会がある。その他、1 年を通じて数多くのイベントがあり寮の生活は大変充実したものであった。

No	Committee	Chairperson AY 14/15 Email	No	Committee	Chairperson AY 14/15 Email
1	RRMP	Tan Zhen Wei A014306@NUS.EDU	33	Floorball (M)	Zhong Ming A008176@NUS.EDU
2	DnD	Jaga Naidu A014308@NUS.EDU	34	Floorball (F)	Jaslin A005322@NUS.EDU
3	AEC	Cheng Xin Yi chengxyi@nus.edu.sg	35	Frisbee (Mixed)	Ethan Tam A0111028@NUS.EDU
4	Hall Promotion Board	Si Hui A014315@NUS.EDU	36	Handball (M)	Koh Kai Ming A0087254@NUS.EDU
5	RHOC	Oliverard Sim olivard@nus.edu.sg	37	Handball (F)	Mare A0116020@NUS.EDU
6	RVC	Felicia Tay A011666@NUS.EDU	38	Netball (F)	Milly A010955@NUS.EDU.SG
7	RAAD	Yi Long tayyifong@NUS.EDU	39	Road Race (M)	Liang Hao Yi A0115362@NUS.EDU
8	Chingey	Yan Xu yanxu@NUS.EDU	40	Road Race (F)	Gillian Chan A0084527@NUS.EDU
9	Business Comm	Liu Ming Yi A0109617@NUS.EDU	41	Soccer (M)	Liam Fisher A0091152@NUS.EDU
10	Secretariat	Darshini A0098001@NUS.EDU	42	Soccer (F)	Jasmine Han A0115837@NUS.EDU
11	BdP	Ines A0113039@NUS.EDU	43	Softball (Mixed)	Jin Wei A0116367@NUS.EDU
12	Convention	Jing Qi A0102299@NUS.EDU	44	Squash (M)	Chau Jun Xun A0054523@NUS.EDU
13	Meteor Workshop	Wang Wen Jie A0115462@NUS.EDU	45	Squash (F)	Tan El Huan A0116379@NUS.EDU
14	Tech Team	Wang Xun A0113303@NUS.EDU	46	Swimming (M)	Nicholas Wong A0115554@NUS.EDU
15	Arts and Graphic	Aravindh Raj A0098333@NUS.EDU	47	Swimming (F)	Chan Hui A0100036@NUS.EDU
16	Phoenix Press	Jesline A0112636@NUS.EDU	48	Table Tennis (M)	Wen Yalong A0105291@NUS.EDU
17	Social Comm	Wu Jie Mei A01116050@NUS.EDU	49	Table Tennis (F)	Tang Yanan A0091187@NUS.EDU
18	Bk 2 Comm	Sheric Koh A0114881@NUS.EDU	50	Takraw (M)	Brendan Lim A0111085@NUS.EDU
19	Bk 3 Comm	Keane Kee A0111731@NUS.EDU	51	Tennis (M)	Brandon Chia A0097266@NUS.EDU
20	Bk 4 Comm	Ho Yan Xun A0114789@NUS.EDU	52	Tennis (F)	Kylie Chee A0112129@NUS.EDU
21	Bk 5 Comm	Chin Yag Han A0111458@NUS.EDU	53	Touch Rugby (M)	Chin Meng A0094636@NUS.EDU
22	Bk 6 Comm	Tao Yi Lin A0114650@NUS.EDU	54	Touch Rugby (F)	Chin Meng A0094636@NUS.EDU
23	Welfare	Lu Hao A0116728@NUS.EDU	55	Volleyball (M)	Alvin Tan A0084729@NUS.EDU
24	Green	Zhang Kai A0115378@NUS.EDU	56	Volleyball (F)	Jennifer Ong A0101469@NUS.EDU
25	WSH	Jia Ying (Iason) jiaying@nus.edu.sg	57	RH Dance	Alyssa Tan A0113831@NUS.EDU
26	SAC	Joshua Tan A0111643@NUS.EDU	58	RH Drama	Ng Zheng Dong A0099708@NUS.EDU
27	Athletics (M)	Adib Rafique A0108365@NUS.EDU	59	RH Music Ensemble (Rebels)	Eveline Patricia A0116408@NUS.EDU
28	Athletics (F)	Wen Ning A0115675@NUS.EDU	60	RH Voices	Ng Kai Jun A01114710@NUS.EDU
29	Badminton (M)	Ginn Chau A0112574@NUS.EDU	61	[RH]Jockeyfellas	Marius Andrian A0113764@NUS.EDU
30	Badminton (F)	Lin Yuan A0116295@NUS.EDU	62	Unplugged	Tan Chooong Hou A0112186@NUS.EDU
31	Basketball (M)	Qingbin A0084674@NUS.EDU	63	Culture Comm	Lee Yih Peng A0112105@NUS.EDU
32	Basketball (F)	Wang Wen Jie A0119463@NUS.EDU	64	Rhythm (Acapella)	Abel Siow A0111485@NUS.EDU

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は 1 年を通して暑く湿度が非常に高いが、雨季である 12 月~1 月には気温が下がり、朝晩は半そで短パンだと寒と感じるような日もある。逆に 4 月~5 月は最も暑くなる。1 年中雨も多く、特にゲリラ豪雨のような熱帯気候特有の突発的な強い雨が多いため、折り畳み傘を携行しておいた方がよい。大学内には緑が多く、スポーツ施設・ジムも充実しているほか、大学周辺には多くの自然公園が存在しており、スポーツやランニング、散歩等に最適な環境である。NUS は市の中心から少し外れているが、学内に駅や公共バスのバス停もあるため、交通に関して不便だと感じることはない。交通費は日本と比べると安く、地下鉄(MRT)がほぼ全土にわたって張り巡らされているほか、バスの路線も多く、比較的容易にどこでも行ける。Suica / Pasma と似た EZlink カードというのがあり、これを利用したほうが少し安い(駅やコンビニで簡単に作れる)。終電・周バスは 12 時前後で、タクシーも日本と比べると少し安い。食事については、アジアの料理を中心とした様々な国の料理を食べることが可能である。特徴的なのは Hawker Centre と呼ばれるどこにでもあるフードコートであり、様々な料理が手ごろな値段(3~8SGD)で食べられる(左図)。大学内には各 Faculty に Canteen が存在するほか、カフェやレストラン、ファストフードも多い。日本食も人気であり、基本的に値段は高いが、簡単に食べられる。また、シンガポールにはショッピングモールが大変多く、必要なものはだいたいそろえることができる。一方で、基本的にどの店も閉まるのが早く、夜遅くまで開店している店は少ない。自分の場合は、基本的に VISA デビットカードを使用して ATM から定期的に引き落としした。カードが使える場所も非常に多いが、上記の Hawker Centre や一部の店では使えない。



食事については、アジアの料理を中心とした様々な国の料理を食べることが可能である。特徴的なのは Hawker Centre と呼ばれるどこにでもあるフードコートであり、様々な料理が手ごろな値段(3~8SGD)で食べられる(左図)。大学内には各 Faculty に Canteen が存在するほか、カフェやレストラン、ファストフードも多い。日本食も人気であり、基本的に値段は高いが、簡単に食べられる。また、シンガポールにはショッピングモールが大変多く、必要なものはだいたいそろえることができる。一方で、基本的にどの店も閉まるのが早く、夜遅くまで開店している店は少ない。自分の場合は、基本的に VISA デビットカードを使用して ATM から定期的に引き落としした。カードが使える場所も非常に多いが、上記の Hawker Centre や一部の店では使えない。



ーその他(服や娯楽、交通費、印刷費等):100
=1 か月間の合計:約 300SGD

・留学に要した費用総額とその内訳

- ー航空賃(帰路の荷物超過料金含む):1400
- ー教科書代(教科書 1 冊+Reading 等のコピー代)(概算):200
- ー寮費(1 年):2800
- ー休業中の寮費:250
- ー寮の食費(1 年):800
- ーそれ以外の食費(概算):2000
- ー海外留学保険:150
- ー交通費(概算):300
- ー虫歯治療:1200
- ー海外旅行(計 4 回:ラオス・スリランカ・タイ・ミャンマー・ベトナム・マレーシア):4000
- ーその他(家具や服、文房具、洗面具等)(概算):1000
- ーその他(国内観光費、イベント・マラソン参加、娯楽費)(概算):500
- ーその他(長期滞在 VISA や手続き等の費用):400
- =総額:15000SGD

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金は公益財団法人業務スーパーパジャンパドリームからいただいた。応募期間は 2014 年度の 1 月中旬から 2 月下旬で、友達からの紹介で見つけた。書類選考の後、神戸にて面接選考が行われ(交通費支給、約 1 時間のグループ面接)、合格者約 40 名が二月ごとに、月額 15 万円を口座振り込みにて受け取ることができる。留学後は 1 か月以内に報告書の提出が求められる(2015 年 5 月現在、それ以外の報告会等はない)。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

(※写真は「その他②」に掲載)

上述した通り、NUS には多くのスポーツクラブが存在し、またそれぞれの寮にも様々な CCA が存在している。私は、NUS の Cross Country と、寮の Road Relay、Track、Dance に参加した。Road Relay とは日本でいう駅伝のようなスポーツで、Inter Hall Game (IHG) に向けて、週 1~2 回練習があった。IHG では、メンバー全員がそれぞれベストタイムを出し、全体で 3 位を獲得した。Dance には Sem2 から参加した。寮内でのイベントや NUS の Open Day、そして NUS 最大のダンスイベントである Dance Uncensored(3 月 30 日・4 月 1 日)に向けて、週 2~3 回練習があった。自分は今まで全くダンスの経験がなく、他のメンバーに追いつくのは非常に大変だったが、その分最高の達成感と仲間を得ることができた。全体として、自分が住んでいた Raffles Hall は初心者にはやさしく(寮によっては経験者しか入れない・オーディションがある)、学習以外の活動をするのにとってつけの場所であったと思う。

学外のイベントとして、Chinese New Year 直後の政府主催のイベント、Chingay2015 に、NUS として参加した。Chingay とは、欧米圏や日本を含めた様々な国から、11,000 人ものパフォーマーが参加し、それを上回る観客が来場するアジア最大規模の Street Performance and Float Parade である。2 月 27 日・28 日・3 月 1 日の本番に向け 1 月から練習を開始し、NUS 総勢約 200 人でパフォーマンス(ダンス)を行った。

上記に加えて 2 つのマラソン大会にも参加した。1 つは NUS 主催のマラソン(NUS に所属していない場合も参加可能)で、10 キロオープンにおいて、全体で第 5 位を獲得した。もう 1 つはシンガポール最大のマラソン大会の 1 つである、Standard Chartered Marathon に参加した。早朝 5 時にスタートし、フルマラソン 42.195 キロを約 3 時間 40 分で完走した。自分は参加できなかったが、他にも様々なマラソンイベントが 1 年を通して数多く存在した。

NUS では、Sem1 と Sem2 間の約 1 か月の長期休業のほか、それぞれの学期の途中に 1 週間の Recess Week が存在し、その期間を利用して海外旅行へ行った。シンガポールから周辺の東南アジア・南アジアの国々への航空賃は、日本からと比べて格段に安く、直行便も多いため、旅行しやすい環境と言えるだろう。私の場合は、ラオス(1 週間)、スリランカ(1 週間)、ミャンマー・タイ・ラオス・ベトナム(20 日間)、マレーシア(3 日間)と計 4 回旅行した。マレーシア以外はすべて、バックパックでの 1 人旅であり、素晴らしい景色・人・文科に出会えたほか、様々な経験ができた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとてもよい。ただし、規制も厳しい(ガム禁止、公共の場での夜 10 時半以降の飲酒・お酒の売買禁止等)。医療機関も充実しており、日本語が通じる医者がある病院も少なくない。大学内にも大学付属の病院がある。1 年を通して気温が高いということを除けば、基本的に日本で生活するのとあまり変わらないと考えてよい。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

ー食費(基本的には 1 週間で朝 1、昼 7、夜 1 で約 40x4 週+スナック等):200

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学後すぐに(8月第1週)留学生オリエンテーションがあり、必要な手続きや留学生用のイベント等の情報が説明される(ただし絶対に出席しなければならないというわけではない)。英語に関してのサポートはないが、それぞれの留学生とシンガポール人学生による語学教室が学期の初めに1回ある。また、学生によるバディプログラムというものがあるが、渡航前にこれに登録すると、空港まで迎えに来てくれたり、生活面での相談に乗ってくれたりする。また、私は参加しなかったが、生活・精神面でのイベントもいくつか用意されている。その他悩み事や質問がある場合は、学生向けの Student Centre があり、相談に乗ってくれる。

講義はレベルごとに分かれており(1000~6000、左の数が大きいほどハイレベル)、選びやすい。フルタイムの学生は点数のようなものを持っており、それを希望する授業に割り当てて授業が決まるというシステムが採られ、留学生が授業を選ぶのはその後となり、若干不利である。一方で、たとえ定員に達していても、直接担当教員に頼めば許可される場合もあるので、どうしても履修したい授業があれば連絡するとよい。Tutorial はも同じようなシステムで現地学生が優先され、その後、上述の通り早い者勝ちで決定される。授業や予習で使用するレジュメ・Reading や課題に関する連絡等はすべてオンラインで管理されており便利であるが、パソコンがないと不便かもしれない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

キャンパスのほぼ中心に Central Library があるほか、いくつかの専門図書館がある。スポーツ施設は大変充実しており、ほぼすべてのスポーツの施設があるほか、無料のジムやプールも設置されている。各 Faculty に Canteen が存在するほか、カフェやレストラン、ファストフード店もあり、またキャンパスの近くに 24 時間営業のレストランもある。キャンパス内では Free-Wi-Fi が使用できるが、正直あまり通信は良くない。学内の寮では Wi-Fi が使用できないところも多い(部屋では、ケーブルにより PC でインターネットを使用することは可能)。大学内には国内最大級の病院が併設されており、そこで治療も可能である。キャンパス内には、多くの無料シャトルバスが走っていることに加え、公共バスと地下鉄の駅もある。各寮や図書館にはクーラーの効いた Study Room があり、テスト前は 24 時間開放される。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

2015年5月現在、就職活動はまだ行っていない。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

大学に入って1年目くらいまでは、海外に対し憧れのようなものを抱いており、将来も海外で働きたいと思っていた。しかし時がたち英語に対して不安を感じるようになり、大きな理由もなしに、わざわざ海外で就職する必要はないと考えるようになった。しかし今、約1年間の留学を得て、英語力が大きく向上したわけではないものの、自分に自信を持てるようになり、また日本と違う文化で生活することに、改めて興奮を感じるようになった。同時に、シンガポール人の日本の技術や文化に対するポジティブなイメージを聞いて、このようなイメージを崩さないためにも、日系企業で働き日本を世界に発信していくこともいいのではないかと感じるようになった。すなわち、海外で働くということに対する恐れが減少し、異なる文化の中で自分の能力を試したい、あるいは日本の魅力を発信したいと思うようになった。

もう少し具体的には、この留学と合間の海外旅行を通じて、旅行産業に興味を持つようになった。現在の自分の先行では学べなかった Tourism の授業は学問的・商業的な理解を深め、自分が実際に旅行し異文化で暮らすことは、旅行産業に何が求められているかを考えるきっかけになった。特に現在は、旅行・観光を通じて日本の魅力を伝えるということに関心を持っており、その様な仕事も考慮するようになった。

加えて、留学の経験により自分に自信がつくと同時に、留学中の出来事により物事を始めるのに遅すぎるということはない、ということも学んだ。今までは就職について、自分の興味のありそうな分野だけに関心を持っていたり、専門知識がないことを理由にこの業界は無理そうだと決めつけたりするようなことがあったが、今後はもう少し方に捕らわれずに就職について考えられると思う。特に来年の就活がスタートするまでに、インターンを含め様々な企業について知る機会があると思うので、限られた期間を存分に利用し悔いの残らないような就職をしたいと思っている。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

卒業年度を1年遅らせることにしたため、特に対策はしなかった。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
3. 公的機関(機関名:)
4. 非営利団体(団体名又は分野:)
5. 民間企業(企業名又は業界:)
6. 起業(分野:)
7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず、この留学は自分の目的と照らし合わせて、3つの意義があった。第1に、英語能力の向上である。留学の最も大きな目的として、1年間周りがすべて英語という環境に身を置くことで、自分の英語能力を向上させたいと考えていた。結果としては、英語の力自体は大きく向上したようには思えなかった。特に Listening では、いまだに正確に聞き取れないことが多々あり、Speaking では専門的な話やディスカッションになるとどうしてもついていけないことに加え、語彙も明らかに足りていない。一方で、様々な場面において、英語に対する抵抗がなくなり、英語で生活するという環境には慣れた。英語の能力はこれからも向上に努める必要があるが、自らの英語に自信を持ったという点で、この留学には大きな意義があったと言える。第2に、専門知識の獲得である。上述した通り、NUS では国際関係学・東南アジア学・ツーリズムの3つを中心に授業を履修した。すべて英語というハンデがあった分、授業に追いつけず浅い理

解で終わってしまった授業があった一方で、ディスカッションやグループプロジェクトを通じ、自らよく考え発信することで、深い知識と考えるきっかけを得るような授業もあった。第3に、異文化の需要である。大学入学以来、旅行やサークルを通じて様々な文化と触れてきたものの、短期のもの、あるいは日本における留学生との交流がほとんどであり、異国でこのように長い期間、現地の人々と一緒に生活をしたことは初めてだった。特にシンガポール・NUSでは様々な人種の人々がそれぞれの文化を保ちつつ生活しており、自分にとって毎日が刺激的だった。このような環境の中で、日本とは異なる文化を受け入れることを学び、今後ますます進むであろうグローバル化に備えられたと思う。

これらのことに加え、見知らぬ土地において英語で1年間生活・勉強し、また海外旅行等で困難を乗り越えることで、自分に対する自信がついたと思う。すべて完璧だったわけでは決していないが、最終的にこの留学を満足するもにできたことで、今後も何かに挑戦するときに大きな心の支えになるだろう。また、様々な活動や日々の生活の中で得た多くの友人は、自分にとってかけがえのない宝物である。

最後に、以上のように、様々なことを学ぶことができた・自分を成長させることができたということだけではなく、単純にこの留学が楽しいと思え、帰国時にもっとこの国に滞在したいと思えたことが何よりも嬉しかった。

②留学後の予定

帰国後の学期(2015年度 Sem1/Sem2)は授業を履修せず、Sem3が始まるまでインターンとアルバイトをする予定である。同時に来年度の就職活動に向けて、興味がある分野の企業・業界の情報も集めていきたいと思っている。留学により、興味・関心が少なからず変化したため、3か月以上あるこの期間を有効に利用したい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学の準備は時間がかかり面倒なうえ、1年間海外の異文化・多言語の中で暮らすと考えると、留学に対し尻込みしてしまうことがあるかもしれません。しかし、留学で得られる経験はそれぞれにとって必ずかけがえのないものとなり、多少なりとも自分の成長につながるはずです。不安があってもだいたいなんとかなるので、少しでも留学に興味があればぜひ挑戦してほしいと思います。

また、留学が決まり実際に渡航したら、勉強だけでなくいろいろなことに挑戦してほしいと思います。多くの人にとって英語や勉強が主要な目的になると思いますが、それらに加えて時間の許す限り様々なイベント・活動に参加することで、深く広い経験が蓄積され、何らかの形で成長につながるはずです。このような長期の留学ができるのは本当に貴重なことなので、思う存分挑戦して失敗して楽しんでください！！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にない。分からないことがあれば、以前留学した人に聞か、国際交流課の方に聞くとよい。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

(Road Relay in Inter Hall Game)



(Chingay 2015: the Performance and Float Parade)





(Dinner / Breakfast: Food in Raffles Hall)



東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界: マスコミ) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学(National University of Singapore = NUS)。近年のTimes Higher Educationなどのランキングでは、東大に次いでアジア 2位に位置づけられることが多い。シンガポールだけでなく、マレーシアやインドネシア、中国といったアジア諸国を中心とする国々から、広く学生を集めている。

留学した動機

英語能力を向上させたかったこと、日本を離れて今までと異なる環境に身を置いてみたかったこと、申請時に言語に興味があり、その分野の知見を深めようと思ったこと、アジアー豊かと言われるシンガポールに興味を引かれたこと。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[4]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年8月 ~ 2015年5月 学部/修士/博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[4]年の[秋]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[4]年の[8]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[60]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[24]単位
留学後の取得(予定)単位[84]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 留学に応募することを決めた時点で、卒業までにこの期間しか時間がなかった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

NUSの指示に従っていれば問題はない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

NUSの指示に従っていれば問題はない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

出発前に指示に従って日本でAIDSなどの検診を受けたが、英語で診断書が出してもらえず、持参した日本語の診断書は無効と言われた。英語で書いてあっても無効になることがあると聞いたので、最初からシンガポール大学内の保健センターで受診するつもりで行くのがよいと思う。その方が安いし便利。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

交換留学生全員が加入する現地大学の保険。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

必修ゼミの単位分割。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLiBT92。日常的に英語でニュースを読み聞きたり、英語の会話を練習したりする機会を持つようにしていた。また、Academic Writing やアメリカ人の教授による英語での授業を履修していた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シンガポールは日本人向けの商店もあるので、必要なものの多くは現地で買える。基本的にその場で対応していけばいいと思うが、英語の語彙強化などは日本でやってもシンガポールでやっても同じなのでなるべく準備していった方がいいと思う。また、すでに留学を終えた先輩や友人に話を聞くとイメージがわいてよい。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Chinese (Language), Japan and China, Postwar Japanese Cinema and Anime, Comparative Politics, Public Speaking, Japanese Pop Culture

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

リーディングが課されるほか、基本的に授業時間の約3分の1はチュートリアルとされ、発表をしたりディスカッションに参加したりすることが求められる点が東大と異なる。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

Semester 1は3科目履修、1科目聴講。Semester 2は4科目履修した。一科目当たりの授業時間は平均して週に130~190分程度、授業以外の学習時間は1~4時間ほど。

④学習・研究面でのアドバイス

勉強しようと思えばできる一方、楽をしようと思えばそれができる環境なので、自分が留学中に何をしたいのかよく考えておくといい。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

早口で話すネイティブ・スピーカー、特にシンガポール人の英語は聞き取れないことが頻繁にあった。自分の理解できるペースに持ち込む工夫が必要かもしれない。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

University Townという総合施設内の寮を、申請時にネット上で予約した。他にPrince George's Parkという寮があるが、基本的にUniversity Townの方が設備が新しく、評判がいい。個室と4人の共有スペース・トイレ・シャワーからなる部屋で生活していた。家賃は一学期あたり20万円ほど。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は年中高温多湿だが、日本の8月に比べればやや涼しい。一方室内は強くエアコンがかかっていることも多いので、長袖の上着は必要。交通機関はよく整備されていて、バスの使い方も覚えれば楽にいろいろな場所に行けるし、タクシーは日本に比べて格段に安い。食事は寮の近くにある食堂に行けば、多少飽きることはあっても困りはしないと思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は日本並みによく、スリなどの情報を耳にすることもなかった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

航空賃は往復で6~8万円(2往復)、教科書は計1万円、食費・交際費は毎月7万円、交通費毎月5000~1万円、旅行費(4回)12万円程度。

・留学に要した費用総額とその内訳

上記と家賃の合計で90万円程度。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

語学が好きなので、現地で知り合ったフランス人交換留学生にフランス語を習ったりシンガポール人の現地学生に中国語を習ったりしていて、代わりに彼らには日本語を教えていた。合気道部やJapanese Study Societyの活動にも時々参加した。1学期の中間に2度一週間程度の休みがあったので、近隣のベトナムやタイなどに旅行に行くこともあった。長期休暇には日本に帰国した後、シンガポールに戻る前に3週間ほど台湾に滞在し、旅行のほか、語学学校で中国語を習っていた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

親切な人が多く、全体的にサービスはよかったと思う。落し物をした場合も、きちんと持ち主に連絡が来るように管理されていた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は大きく、一部では日本語の書籍や雑誌、新聞も読むことができた。University Townには無料で使えるジム

やプールがあり、自習のスペースも充実していた。寮の自室は例外だったが、大学内のほぼどこでもWiFiが使えるので、インターネット環境に困ることもあまりなかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外の生活環境や周りの学生などを見る中で、自分は日本をベースにして働こうと決心した。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

興味があったマスコミ分野の企業の情報をネット上で集めたり、その企業の発行する記事や放送する番組を見たりしていた。また、現地の支局に勤める方にお会いし、海外での事業展開や業務内容について詳しく知ることができた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

当初の目標通り、英語と中国語、特にコミュニケーションの能力は向上したと思う。また、日本人、外国人問わず広いバックグラウンドを持つ学生と交流する中で、自分が今後どのような人間になりたいのか、社会の中でどのような役割を果たすべきか考えることができた。どのような環境に置かれても、自分が持っている能力を活用して最大限適応していく能力も身に着いたように思う。

②留学後の予定

8月までは就職活動に力を注ぎ、それから卒業論文に取りかかる予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は、実際に海外へ出発した後だけでなく、その準備段階や選考過程にも自分の力(情報収集能力、英語力、自分の経験を的確にアピールする力など)を伸ばしたり、自分が実現したいことを考えたりする機会が多くあると思う。また、長い目で自分が何をを目指すのかよく考えておくことで、留学の意義をより大きなものにできる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方(シンガポール、その他東南アジアの国々版)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学

東京大学と香港大学と並び、アジアで最も評価の高い大学の一つ。高い国際性と人材資源国家ゆえの整った教育環境が魅力。

留学した動機

アカデミックな英語力を身に付けること。

他国の教育環境を体験すること。

世界中に交友ネットワークを広げること。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 ○学部/修士/博士[3]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/○留学

③留学期間: 2014 年 8 月 ~ 2015 年 5 月 ○学部/修士/博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 ○学部/修士/博士[3]年の[冬]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 ○学部/修士/博士[4]年の[4]月頃に(行った/○行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

進振りや研究室配属の都合上、二学期間の留学を行うにはこの時期しかなかった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

5~6 月頃にメールが届くのでそれに従った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

シンガポールで行った。大学内で全て行ってくれる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

周辺諸国を旅行することを考慮して多めに予防接種を受けた。シンガポール国内だけだと必要ないと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIG のものに加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

数個の試験を受けられなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

日常会話に関しては問題ないレベルだったが、シンガポール到着後は少し苦勞した。英語圏以外のヨーロッパからの留学生も、日本に来ているヨーロッパ人よりも流暢な英語を話し、やはり英語圏での留学なので敷居が高いと感じた。日本にいる非英語圏の人と会話できるのは最低ノルマであり、英語圏の人と問題なく会話できるレベルになっておく必要があると思う。自分はその点に対する認識が甘かった。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

常備薬、日本語の本。英語の本はいくらでも変えるが日本語の本は高い。専門の授業の理解を深める際に日本語の教科書も併用すると効果的だったように思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Programing for Computer Interface
Programing Methodology
Image Processing
Leadership and Organization
Advertising Strategy
Chinese 3

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

宿題や Reading が多く課せられた。私が履修した工学系の授業は全て講義が録画されており、あとでオンラインで復習することができるのでとても重宝した。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3 科目 12 単位

面白そうな授業が多くて多くとりがちだが全てをしっかりとこなそうとすると 3 個がよいと思う。

1つの授業あたり週に 6 時間ほどとるものもあったので日本の 1 科目とは重さが全く異なる。

④学習・研究面でのアドバイス

一緒に勉強できる友達を見つけるとよい。教科書の購入は Carousell というアプリを使うと安い。現地の学生の多くが使っている。また、グループワークは他のメンバーと持ちつ持たれつの関係であり自分の都合で妥協することは許されない環境である。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ディスカッションはなれるまでは大変で予習は欠かせない。情報系の授業はインド人の講師が多く、訛りが強くて苦労した。テスト中の問題訂正が全く聞き取れなかったときは特に困った。シンガポール人の先生も訛りは強いがこちらの聞き取りはさほど難しくない。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮。リビングルームを 4 人でシェア。自分の寮は基本的に人部屋あたり二つの国籍が住むことになっており、ルームメイトの一人は日本人だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

年中暑い慣れる。スクールもすぐに慣れる。屋根がいたるところについており、土砂降りでも傘を持たずに外出でき、その点は便利だった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は日本と同じぐらい良い。夜に出歩いても怖い思いをしたことは全くなく、また、そういう話も聞かなかった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費: 約 20 万円(1 学期あたり)

教科書代: 約 2 万円(1 学期あたり)

食費: 約 3 万円

携帯電話代: 約 3000 円

娯楽費: 約 15000 円

・留学に要した費用総額とその内訳

約 100 万円

(家賃 40 万円、食費 30 万円、携帯電話 2 万円、保険料 13 万円、予防接種 4 万円、航空券代 10 万円、書籍代金 5 万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

佐藤陽国際奨学財団(Go Global のサイトで見つけた)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮の芝生でサッカーやフリスビーをしていた。長期休暇や週末は周辺諸国に旅行したりした。ホストファミリープログラムというのに参加し、月に 1 度ほどシンガポールの家庭にお邪魔して、ご飯を作ったり食べたりして、シンガポールの家庭の雰囲気を感じることができた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生同士が仲良くなるためのイベント等が多く開かれており、友人作りの面では本当に助かった。語学面でのサポ

ートは特になかったように思う。しいて挙げれば、テストによっては非英語圏からの生徒に紙の辞書の持ち込みを許可されるものがあった。生活面・精神面のサポートという面では、寮のルームメイトに日本人がいることが心強かった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

全ての面において満足度が高かった。挙げればきりが無いが、無料で使えるジム、プール、安くて美味しい食堂、テスト前には24時間開放される図書館、など、設備において不満を持ったことは一度も無かった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
インターンの選考においてはアピールポイントになったように思う。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
海外を見たことで日本のよさも知ることができたので、逆に日本で働きたい思いが強まった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
特になし

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語が武器ではなく単なる手段であるという環境では、英語力という自分の武器が減るだけではなく今まで持っていた自分の武器も弱まる。得意な分野の授業でも自分の力を発揮するのは難しくなるし、コミュニケーションにおいても日本より難しく感じるかもしれない。そのような環境でこそ、今まで見えてこなかった自分の側面が見えてきたと思う。自分の人生において必要不可欠な貴重な一年間だった。

②留学後の予定

来年の就職活動に備えて、夏のインターンシップに参加する。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷っているならば是非留学はすべきです。留学をして後悔している人を自分の周りで見ることがありません。考える機会を多く得られるのでじっくり考えて大きく成長してください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。